



富士浅間宮

四百年前に建立された流造の屋根が美しい

東名高速道路のすぐ北に位置する富士浅間宮。大同2(807)年、坂上田村麻呂が征夷の折、富士山麓の浅間神社の神力によって成功したことに感謝し、ここに勧請、社殿を造営したことに始まると伝えられています。古くから武士の信仰が厚い神社です。

武田氏の兵火にかけ社殿は焼失、天正18(1590)年に地頭本間源三郎重泰が再建、寛永15(1638)年に久野城主北条氏重によって現在の地へ移しました。

1 富士浅間宮本殿



昭和25年8月29日
国指定重要文化財建造物

本殿は三間社流れ造り、檜皮葺き。天正18(1590)年に、地頭本間源三郎重泰が社殿を造営。次いで寛永15(1638)年、久野城主・北条氏重が現在の地へ移しました。本殿左右の脇障子には左に「鯉の滝のぼり」、右に「松に鶴」が彫られている。説明板あり。

袋井市国本



41 原川浅間宮鰐口



昭和56年3月5日
市指定文化財工芸品

銅鑄製。銘文によると、天正17(1589)年に製作されたことがわかる。直径34cm。

非公開。

70 富士浅間宮田遊び祭



平成元年4月1日
市指定文化財無形民族

室町時代から伝わる「予祝芸能」で、その年の実を豊かなものになるように、神に約束させるものです。毎年1月3日に、拝殿を中心に、氏子の男子によって行われる。

文化財ビデオ第3集「富士浅間宮田遊び祭」。



袋井市国本992